

ねじりはちまき

6月(水無月)、芒種、夏至の月になりました。
6月1日衣替え、5日芒種、11日入梅、18日父の日、21日夏至となっております。

18日の父の日は、1916年に当時アメリカの大統領ウイルソンによって認知され、1972年ニクソン大統領の頃に、正式に国民の祝日に制定されました。

日本では、1950年あたりから知られるようになりましたが、母の日に比べると、年中行事としてはまだはっきり定着したとは言えないようです。母の日のカーネーションのように、贈り物も特定されていませんね。アメリカのドットと言う婦人が、父親の墓前に白いバラを供えたことから、父の日はバラで、一般に白以外に赤や黄色のものが贈られているようです。また、花に限らず日頃の感謝を記したカードやお酒や、日頃使う身に着ける小物のようです。

衣替えをしたとたん梅雨寒、あわててセーターを引っ張り出すという事もあります。ご注意ください。

幸田 常一



お世話になっております。

事務所内では、これから始まる工事に向けて図面や書類の作成などしています。

また、先月末頃から本宮市の現場で、蔵の改修工事をさせていただいております。

「アマギヤマ」

私がお世話になっております K 市の山岳愛好会の月例山行が、253回を数えることになりました。

今回の山行は年に1度のメイン山行ですが、半ば観光旅行といった感じのものでした。この山行に、86歳になった私も参加させて頂きましたので、その概要についてご報告させていただきます。

1日目は小雨の降る中、K 市を予定通り6時に会長夫妻を含む17名(男性7名・女性10名)の会員など乗せて出発。バスは新車、ドライバーも頼もしい若者であり、安心して乗車。会長を始め、バス会社の関係者のご配慮に深謝しつつ車上の人となりました。

バスは、東北道―圏央道―小田原厚木道を快調に走り抜けて芦ノ湖を経て、小雨と厚いガスの大涌谷へ。

噴気の吹き出す様は、全く見えず残念。大涌谷の土産物店で、黒卵を家で留守番をしている家内にと買い求めてから、保存期間が2日と短いことを知り残念。

次いで、箱根の関所を見学。この頃は雨も止み、傘の心配はなくなる。江戸時代の関所を(関所の建物の素材は新しいもので、最近立て替えたものと私は判別した。)見学。

見学して思うことは、江戸時代と異なり自由に往来出来るありがたさを感じる。その後、伊豆スカイラインを通り、予定通り15:00伊東市のIホテルに全員元気に到着。1日の疲れを大浴場で洗い流した後、懇親会に入る。

セルフサービスで全て食べ放題・飲み放題。幸福感に満ちた一時を過ごす。

2日目の今日は、今回の主目的である天城山(天城山という山は無く、「万二郎岳1299m・万三郎岳1405.6m」の総称。)への登山の最高の日和である。準備万端整えて、8:00ホテルを出発。9:00登山口に到着。昨日の天気とは全く異なり、青い空と新緑の山々、その奥に純白の雪を頂く富士山が指呼の間に眺めることが出来ました。

富士山には3回程登頂し、数回周辺への旅行をしたことがありますが、これ程美しい富士山を見たことがありません。

登山口で記念写真を撮り、9:25万二郎岳を目指して全員元気に出発した。間もなく、足の弱い2人が登頂を断念。急な登山道はよく手入れがされていたが、大きな石があつたり、梯子があつたりと安達太良山の五葉松平コースに似ていた。異なることは、日本語の他に韓国語と英語の案内板が設置されていたことか。

このコースを辿る外国の人々も多くなっているらしい。

私も登山中に多くの外国の方々を目にしました。万二郎岳直下からの富士山の眺めを堪能後、馬粹木のトンネル(花の季節が終わり残念。石楠花や、やしおつつじが最盛期で大満足。)を経て、石楠花平まで行き、足に自信の無い者6人が(私も含む。)万三郎岳への登頂を断念して、帰路に着く。

帰りは往路を辿り18:30無事全員元気に稲取温泉Iホテルに帰着しました。帰着後、大浴場で海を眺めながら今日1日の疲れを洗い流した後、セルフサービスで懇親会。セルフサービスにも慣れて、懇親会の目的も十分果たすことが出来ました。

3日目は、7:45にIホテルを出発、帰路に着く。途中、河津七滝・湯ヶ島・修善寺等を観て、沼津港の飲食店で昼食を摂り、沼津ICから高速道に入りましたが、途中大渋滞となり、予定時間3時間余り遅れの、22:10頃K市に帰ることが出来ました。家内の運転する車に乗り込み、帰宅したのは23:00でした。

このようにして、今年のメイン山行は終わりましたが、体力の衰えを感じて来年は山行に参加する自信を失いつつありますこの頃です。

k・s記

* * * * *

衣 替 え

5月は真夏日が続いたこともあり、すでに衣替えをした方も多いはず。中国の宮廷で、旧暦の4月1日と10月1日に夏服と冬服の入れ替えをしたことから始まった習慣だそうで、日本へは平安時代頃に伝わり、定着して行ったようです。

季節に合わせた服装への切り替えとして行われている衣替えですが、この頃は衣服の他にも、畳や灯籠の網を新しくしたり、屏風や帳(とばり)なども、季節に合わせて替えていたと伝えられています。

明治時代に入り洋服が着られるようになると、役場や学校で制服を着用するようになり、6月1日と10月1日に衣替えを行うようになったのも、この頃だといわれています。

日本歴史の謎といわれるものの一つに「本能寺の変」がある。天正10年6月2日（1582年6月21日）のことである。明智光秀が謀反を起こし、京都の本能寺に宿泊していた織田信長を襲撃し、自害させた。天下統一を目前にしていた信長の野望を打ち砕いたのである。これは誰もご承知のことである。ここでは、信長襲撃がなぜ可能だったのかを探り、次に謎とされる「光秀はなぜ謀反を起こしたのか」を探りたい。むろん自力では出来ないので、歴史研究者の説をお借りしながら迫っていければと思う。

時の情勢はどうだったか。先ず、光秀は信長の信任を得、丹波平定を任されるなど重臣の中では筆頭格にあった。天下統一を目前にして、信長は越後の上杉、備中の毛利を、それぞれ柴田勝家、羽柴秀吉に討たせている最中であつた。つまり、信長の重臣は京都より離れた地にあつた。家康は安土城で信長の接待を受け、その後まだ堺にいた。軍勢はない。光秀が軍勢を動かすに不審を抱かれなかつたのは、信長から秀吉の援軍を命ぜられていたからである。秀吉の援軍として近江の坂本城を發ち、備中高松に向かう途中、「敵は本能寺にあり」と号令を發して信長を襲つた。チャンス逃さなかつた。光秀の軍勢は1万3千人、それに対して信長側の手勢はわずか近習30人（100人の説も）。信長の嫡子信忠が近くの二条御所にいたが同じく襲われ、これまた自害に追い込まれる。焼け跡から信長の死体は見つからなかつたという。それにしても、何回も謀反を跳ね除け、警戒を怠らなかつた信長はこの時ばかりはどうであつたのか。むろん信任の厚い光秀の謀反は頭になかつたであろうが。この時信長は何用で京都に来ていたのか。茶会を催すためであつた。身辺警護に油断があつた。それは天下統一目前にしての驕りがそうさせたともいえる。もちろん信長の京都滞在と警護状況を光秀は知つていた。光秀は変を起こす4日前、京都愛宕山にある愛宕神社に戦勝祈願をする。建前は毛利軍との戦いについてだが、本人は信長を打つ戦いについて祈願していたに違いない。その時はまだ、家臣に打ち明けていないのだ。打ち明けたのは変の前日である。家臣たちは当初反対した。家臣には与力といつて信長から借りていた者がいた。いわばスパイでもある。信長に漏れれば一大事である。そこで家臣の筆頭格である斎藤利三をこう説得する。斎藤は長曾我部(四国)と親戚である。その長曾我部は光秀の勞で信長と友好同盟関係にあつたが、信長が長曾我部に対して出兵の準備をしているという機密を漏らし、機先を制して共に信長を討つべしと。こうして家臣の賛同を取り付け、軍挙げて謀反に踏み切ることができたというわけである。

でも「光秀はなぜ謀反を起こした」のか。その理由が判然としない。よくいう大儀名分があつたのか。信長は討たれて当然とするものがあつたのか。光秀は信長を討つことだけが目的でその後の天下のことは眼中になかつたのか。実は変の1ヵ月前、信長は家康を安土城に招き、その接待役を光秀に命じた。ところが家康の膳に腐った鯛が出されたというのである。これに激怒した信長が光秀を激しく折檻した。これを怨みに思い、変を起こしたという説もあるが、これは余りにも単純で採用できない。通説ともなつていない。考えてみれば、腐った鯛を出すなどというのは考えられないし、信長が起こつて家臣を折檻する行為に出るのもよくあつたことで特別のことでもないといえる。実は、光秀は安土城での接待役の後、なぜか格下の羽柴秀吉の援軍を命ぜられるのである。

次には光秀の経歴を辿つての説がある。光秀は名門の美濃源氏土岐家支流の明智家に生まれる。ところが光秀が若い時に本家筋の土岐家が没落し、本拠となる明智城も攻め滅ぼされてしまう。そこで朝倉家（越前）に身を寄せて仕え、後に朝倉家を頼つてきた室町幕府の足利義昭の幕臣となり、朝倉家が上洛しないのに業を煮やしている義昭を信長に引き合わせ、義昭と信長の両属となる。そして信長が義昭を見捨てるに至ると、信長の直臣となる。しかし光秀は途中採用の、いわば外様である。そこで人より信長に忠誠を尽す。残酷

といわれる比叡山焼き討ちなどで次々武功を挙げ、やがて頭角を現す。信長の信任も厚くなる。そういう中で、光秀は信長の天下統一のやり方に違和感を抱いていたというのである。それは「家柄」だ。光秀はそれを重んじ、誇りに思う。一方信長は重んじない、無視だ。つまり、光秀は、名門の家柄の然るべき存在が天下に号令するのがあるべき姿だと思っていたというのだ。家柄からいえば信長は格下で、他の領国を切り取る方式だ。内心、「土岐家」の再興を強く願っていた光秀であったが、信長の下ではそれはとても叶わない。しかも、信長は国内統一を果たした後は、朝鮮・中国に進出するという野望を持っている。既に56歳の光秀には就いていけないという思いが強くなっていた。つまり、「土岐家の再興」のために謀反を起こしたというのである。もちろん文献には残っていない、推測である。本当にそうであろうか、にわかには信じがたい。というのは、信長を討ち取れば「再興」が叶うにしても、時は戦国。「土岐家の再興」によってどれだけ戦国の世を動せると考えたのだろうか。それほど家柄に値打ちがあると本気に思っていたのか。どうも疑わしい。光秀ほどの人なら、戦国の世がどんなものか、時の情勢に通じているはず。「土岐家の再興」の一事をとって謀反を起こしたとは、とても考えられないがどうだろう。

では次にどんなことが考えられるだろうか。光秀は外様故に信長から「使い捨て」にされる恐れを抱いていたのではないか。あるいは兵法でいう「強力な家臣は抹殺すべし」とされていることもある。「使い捨て・抹殺」にされるのであれば、その前に「信長を討ち果たし、信長にとって代わろう」とチャンスを狙っていたのではないか。そんな中、格下の秀吉の援軍を命ぜられて「使い捨てにされる」恐れが一層大きくなったと考え、挙に出た。こういう推測はどうですかね。それでは光秀は信長を討ち取った後どうするか、どの程度考えていたのだろうか。信長にとって代わるのであれば、天下をどう治めるか考えていたはずである。そうであれば単独でやるより、手を組む相手があればなお良い。しかし、実際はそういう同志を募るのはなかなか難しい。

最後に明智家の子孫に当たる「明智憲三郎」氏の研究による説である。「本能寺の変—431年目の真実」という著書で著している。つまり、「本能寺の変は謀反ではない」というのだ。実は、光秀は信長から、本能寺で家康を討つよう命を受ける。前にも触れたが、信長は家康を安土城に招いて接待し、堺などでゆるりと滞在するようにいう。言葉に甘えて家康は滞在し、過ごす。そして岡崎に戻る前に本能寺の信長にお礼の挨拶に立ち寄る手はずになっているというのだ。光秀は驚き、すべきではないと言上するが、信長はきつく言い渡す。「家康暗殺」だ。信長にとって家康はもう利用価値がなくなったというのだ。放っておけば逆に脅威になる恐れがある。今のうちに亡き者にする。この信長の考えに光秀は承服できなかつた。実は、光秀は家臣の木俣清三郎守勝（家康の下でも禄を食む）を通して家康と裏で親しく通じていたのである。もちろん光秀から家康に暗殺の情報はもたらされていたであろう。家康は本能寺に向かったが、その前に光秀が本能寺の信長を襲ったのである。信長を討ち取った後のこと—織田家残党の征伐などについて光秀と家康との間で相談されていたという。でも、この説もわかりかねる。つまり、光秀は信長から家康に乗り換えただけでないのか。どうも「謀反に当たらない」ということにはならないと思えるが、どうだろうか。

光秀の天下は、備中高松から大返しした秀吉に山崎の戦いで敗れ、11日目で終わる。

緑茶

6月に入り、気温も和らいで過ごしやすくなりました。
5月は冷たい麦茶ばかり飲んでいましたが、最近は温かい緑茶がおいしくておいしくて、心身を癒してくれるようです。

馴染みのお茶屋さんで、緑茶には殺菌作用があると教えてもらいました。気温の上昇と共に、口腔内の細菌も活発になってくるので、就寝前に緑茶でクシュクシューがいをするとういそうです。渋いくらいが効果的なのだそうです。お茶の殺菌作用で、細菌の繁殖を阻止してくれますし、お茶の清々しい香りが口の中に広がり、さわやかにしてくれます。

* * * * *

今月の旬♥食材
「ピーマン」



ピーマンはビタミンCが豊富で、特有の青臭さの成分が血の流れをサラサラにしてくれるといわれています。

加熱調理しても栄養価が消失しにくいのが特徴ですので、料理の幅も広がり、楽しくなりますね。

一暮らしのお手入れ(*_*)ミニー

「風を通す」

天気の良い日は風を通し、除湿とカビ防止に努めたいものですね。
靴箱の中など、後回しにしてしまいがちですが、戸を開けておく、靴を干す、除湿シートや除湿剤をこまめに取替える、などほんの少しのお手入れでも大事な靴を守ることができると思います。

平成29年 6月5日発行
有限会社幸田建設
＜発行責任者＞幸田久美
〒969-1204
本宮市糠沢字八幡1-1
電話0243-44-3816

＜後記＞

ねこ好きの佐藤美穂さん。ずっと飼う事を反対されていましたが、やっと飼えることにもでも自宅ではなく、隣のばあちゃん家でならOK!となったようです。5キロもあるのになぜか名前は「チビ」。写真撮りまくりの日々。

事務長ト